

## 日本の電力の安定供給に貢献するとともに、 グローバルな事業展開を図ることで、 企業価値の持続的な成長を目指します

2011年3月の東日本大震災を経て1年半あまり、わが国の電気事業を取り巻く状況は、原子力発電所の稼働停止が長期化する中で、電力需給の逼迫、化石燃料市場のタイト化、地球環境問題の高まり、環境・エネルギー政策ならびに電力制度改革をめぐる議論等、不透明性を増しています。

このような不透明な状況下にあるからこそ、私たちJ-POWERグループは常に原点である企業理念「人々の求めるエネルギーを不断に提供し、日本と世界の持続可能な発展に貢献する」に立ち戻るべきと考えています。

そのために、私たちJ-POWERグループがなすべきことは、第一に日本の電力の安定供給に貢献することです。私たちは全国に保有するJ-POWERグループの水力・石炭火力発電所や基幹送電線等の電力設備の機能を十二分に発揮し、電気事業者としての責務を果たしてまいります。

そのうえで、わが国の中期的な電力供給力確保に向けた電力設備の増強として、大間原子力計画、竹原火力リブレース計画等を一步一步着実に進めてまいりる所存です。

大間原子力計画につきましては、福島第一原子力発電所での事故を真摯に受け止め、より一層の安全強化対策を確実に実施するとともに、新しい知見等を常に適切に反映し、地域の皆さまから信頼される安全

な発電所づくりに向けて全力を挙げて取り組んでいく覚悟です。

また私たちは、「人々の求めるエネルギーを不断に提供し、日本と世界の持続可能な発展に貢献する」という企業理念を地球規模で、そして長期的な視点で展開することを目指しており、新興諸国が求める高効率石炭火力等による海外発電事業の推進や、長期的な低炭素化に向けた革新的技術開発への取り組みも、引き続き着実に進めてまいります。

J-POWERグループは、多様な経営資源を複合的に成長事業にバランスよく投入し、グローバルに展開することで、企業価値の持続的な成長につなげていくとともに、その使命である電力の安定供給をこれまで同様に高い信頼のもとに果たしていくことで、日本と世界の持続可能な発展に貢献してまいります。このため、自らの事業基盤を、技術、人財、財務のすべてにわたって、より強固なものとするべく、チャレンジし続けてまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2012年10月

取締役社長

北村雅良